

11/12~13
於・鹿野山荘

動労千葉 第1回 研修講座 開催さる

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

動労千葉第一回研修講座は十一月一二・一三日、国民宿舎・鹿野山荘で開催された。各支部から動労千葉の中心の活動家五五名が結集し、自らの闘いを検証し、理論学習を深めるために、二日間の学習会は圧倒的な熱気の中でかちとられた。

闘い抜いた自信と確信を闘いの中へ

開講式が一時三〇分より始められ関川委員長から「われわれは昨年来の闘いを強固な組織体制のもとに闘い抜いてきた。この闘いを正しく位置付け、理論を深め、学習を深めてゆくことは決定的に重要である。」

われわれは結成後半年余で10・22、11・1の二波にわたる闘いを貫徹できるほどに組織力を高め、『本部』のデマ宣伝を闘いの事実をもって粉碎してきた。この自信と確信を、今後の国鉄三五万人体制粉碎・二期工事粉碎、備蓄ゼロを掲げた反合・三里塚ジェット闘争の勝利を目指して高めてゆくとともに、研修講座の二日間を奮闘してほしい。」と激励をこめたあいさつが行われた。

「独占と現代資本主義」講師・浅田光輝 「動労の歴史と動労千葉の闘い」講師・中江昌夫

開講式の後直ちに講義に入っていた。

第一講座は立正大学教授・浅田光輝氏を講師として「独占と現代資本主義」と題する講演が行われた。浅田教授はまず独占資本主義の「形成と諸形態、その基本的性格について説明し、「独占の必然的帰結としての帝国主義の基本的性格」を明らかにし、現代資本主義の歴史と性格について、ニュー・ディール政策とケインズの経済思想の限界を指摘し、戦争と反動の時代性を説いた。

続いて、前動労本部副委員長・中江昌夫氏より「動労の歴史と動労千葉の闘い」と題する講演が行われた。動労の三〇年の歴史のうち二七年間を中央本部役員として闘った中江氏は、動労の戦闘的歴史とその変質について生々しく明らかにし、「現在の動労『本部』の『統制』は組織と闘いを強化するものではなくセクトの利害のためのものに歪められており、動労千葉の独立は、八〇年代を闘い抜ける大衆を基盤とした労働運動再生の突破口を切り拓くものであり、動労千葉の闘いこそが動労の戦闘的伝統を継承するものである。」と講演を結んだ。

映画、体操、マラソン

中江氏の講演の後、夕食、入浴を済ませ、一九時三〇分より青年部がこの間の闘いの中で製作した八ミリ映画「イスクラとなれ」を観賞した。10・22、11・1ストを中心に編集された映画は、拍手と歓声と爆笑の中で、全参加者に再度この間の闘いの意義を訴えるものであった。

二日目は全員六時に起床、直ちに中庭に集合し、関川委員長の指導で体操、神野寺まで約二キロのマラソン、朝食の後、九時から講義に入った。

「三五万人体制とは何か」講師・水野組織部長
「動労千葉のかちとった地平と今後の展望」講師・中野書記長

第三講座は水野組織部長を講師に「三五万人体制とは何か」と題する講演が行われ、活発な質疑・討論も含め、「三五万人体制」の本質と闘うべき方向性と、安定宣言路線の反労働者性が明らかにされていった。

昼食休憩の後、中野書記長からの「動労千葉のかちとった地平の今後の展望」と題する講演が行われ、「『本部』革マル集団との熾烈な組織攻防戦を勝ち抜いた動労千葉とは何か」「日本労働運動の欠陥を突破し、国鉄三五万人体制粉碎・三里塚・ジェットを軸に八〇年代に通用する自前の労働運動を目指す動労千葉の闘いの正義性」が全体ではっきりと確認されていった。

第三回定期大会の成功へ向け奮闘しよう！

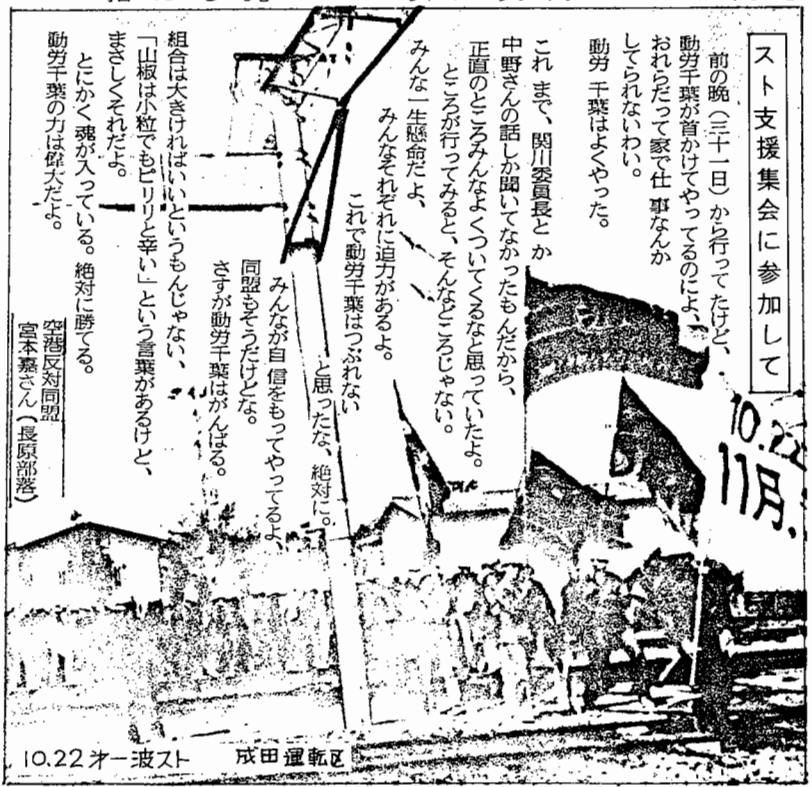
中野書記長の講演の後、布施教宣部長から二日間にかつた研修講座の簡単なまとめが行われ、全員で組合歌合唱、団結ガンバロー三唱が行われて全日程が終了した。

この研修講座で深められた学習の成果を踏まえ一二月定期大会の圧倒的成功に向けて、さらに奮闘してゆこう。

スト支援集会に参加して

前の晩(三十一日)から行ってきた、動労千葉が首かけてやっていたのに、おれらだって家で仕事なんかしてられないわい。
動労千葉はよくやった。

これまで、関川委員長とか中野さんの話しか聞いてなかったもんだから、正直のところみんなよく聞いてるなと思ってたよ。
こうやってみると、そんなにでもない。
みんな一生懸命だよ。
みんなそれぞれに迫力があるよ。
これで動労千葉はつけない。
みんなが自信をもってやってくよ。
同盟もそうだな。
さすが動労千葉はがんばる。
「山椒は小粒でもヒリヒリ辛い」という言葉があるけど、まさにそれだよ。
とにかく魂が入っている。絶対に勝てる。
動労千葉の力は偉大だよ。



10.22オー波スト 成田運転区